

東京 2020
アクション&レガシープラン 2018
～東京 2020 大会に参画しよう。そして、未来につなげよう。～



2018 年 7 月

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

アクション&レガシープラン 2018

目次

アクション&レガシープランとは.....	2
本レポートの構成.....	3
第七章 東京 2020 参画プログラムについて.....	4
1. 参画プログラムとは.....	4
(1) 東京 2020 大会のビジョン、アクション&レガシー、 そして参画プログラムへ.....	4
(2) 参画プログラムの概要.....	5
(3) 参画プログラムのメリット.....	6
2. 現在までの主な実績.....	6
3. さらなる機運醸成に向けて.....	8
(1) 参画プログラム「ホストタウンアクション」の実施... ..	8
(2) 参画プログラム「2 Years to Go!」マークの作成.....	9
(3) 各地域の夏祭りを応援プログラムとして認証.....	9
第八章 東京 2020 NIPPON フェスティバルの展開.....	10
1. 会期.....	10
2. 実施の目的.....	10
3. コンセプト.....	11
4. フェスティバルのマーク.....	11
5. 事業体系.....	12
(1) 主催プログラム.....	12
(2) 共催プログラム.....	12
第一章～第六章（新旧対照表）.....	別紙

アクション&レガシープランとは

- 東京 2020 大会は、「2020 年夏」に、「東京を中心に開催」される、「スポーツの祭典」です。このように大会そのものは、①分野的、②地域的、③時間的に限られたイベントですが、これを単なる一過性のイベントとするのではなく、できるだけ多くの人が参画し、多くの分野で東京 2020 大会がきっかけとなって変わったと言われるような、広がりのある大会としたいと考えています。
- 具体的には、
 - ① スポーツだけでなく、文化・教育、経済・テクノロジーなど様々な分野と連携をとっていきます。
 - ② また、東京だけでなく、オールジャパン、そしてアジア・世界にポジティブな影響を与えていきたいと考えています。
 - ③ そして、これらの取組を 2020 年夏だけに行うのではなく、リオ大会後の 2016 年の秋から開始し、2020 年以降にもつなげていきます。
- こうした東京 2020 大会に向けた取組について、広がりをもって計画的に進めるために、
 - 「アクション」：2016 年秋から 2020 年にかけて日本全国でどのようなイベント・取組を行い、多くの人の参画を促していくのか
 - 「レガシー」：そしてその成果として、東京 2020 大会をきっかけにその後の東京・日本そして世界に何を残し、創出していくのかについて、とりまとめたものが、「アクション&レガシープラン」となります。
- 組織委員会は 2016 年 7 月に「アクション&レガシープラン 2016」を公表しました。これをもとに、実施されたアクションや今後の予定について更新したものが、2017 年版となります。2018 年版については、レガシーコンセプト等、基本的な方向性に変更がないことから、次のとおりといたします。

本レポートの構成

○ 本文

第一章～第六章：2017年からの更新を新旧対照表（別紙）に記載。

第七章～第八章：2018年版（次頁～）を作成。

○ アクション一覧表（付表）

2017年からの時点更新を実施。

※昨年作成した「参画プログラム認証事業一覧」は、参画プログラム特設サイトへの掲載をもってかえる。

(<https://participation.tokyo2020.jp/jp/>)

第七章 東京 2020 参画プログラムについて

1. 参画プログラムとは

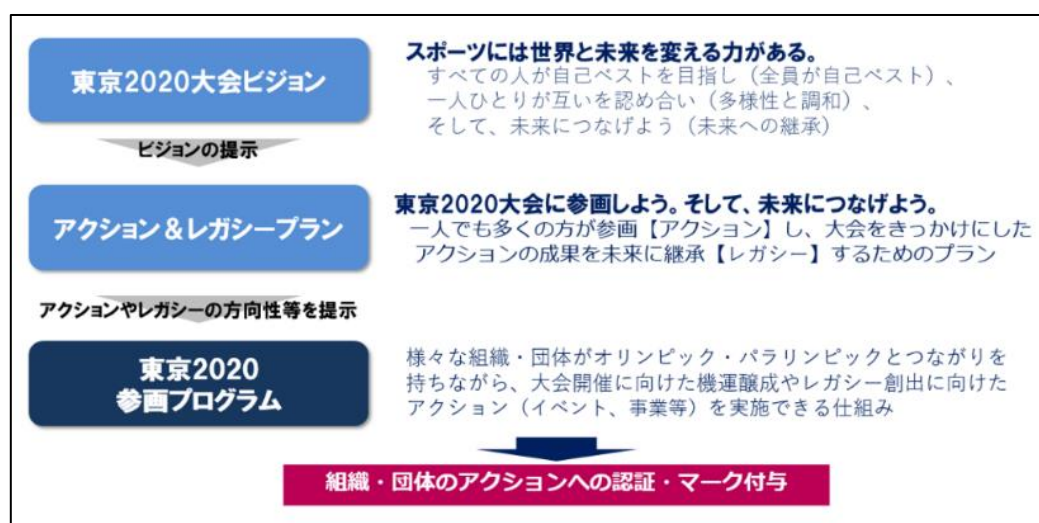
(1) 東京 2020 大会のビジョン、アクション&レガシー、そして参画プログラムへ

東京 2020 のビジョンを実現するための、未来に残すべきレガシーとそれを実現するための行動、アクションを規定したものがアクション&レガシープランとなります。

アクション&レガシープランを実現するためには、政府や東京都、会場関連自治体、スポンサー企業だけでなく、オールジャパン体制で臨み、取り組むことにより、一人でも多くの方に参画いただくことが必要となります。

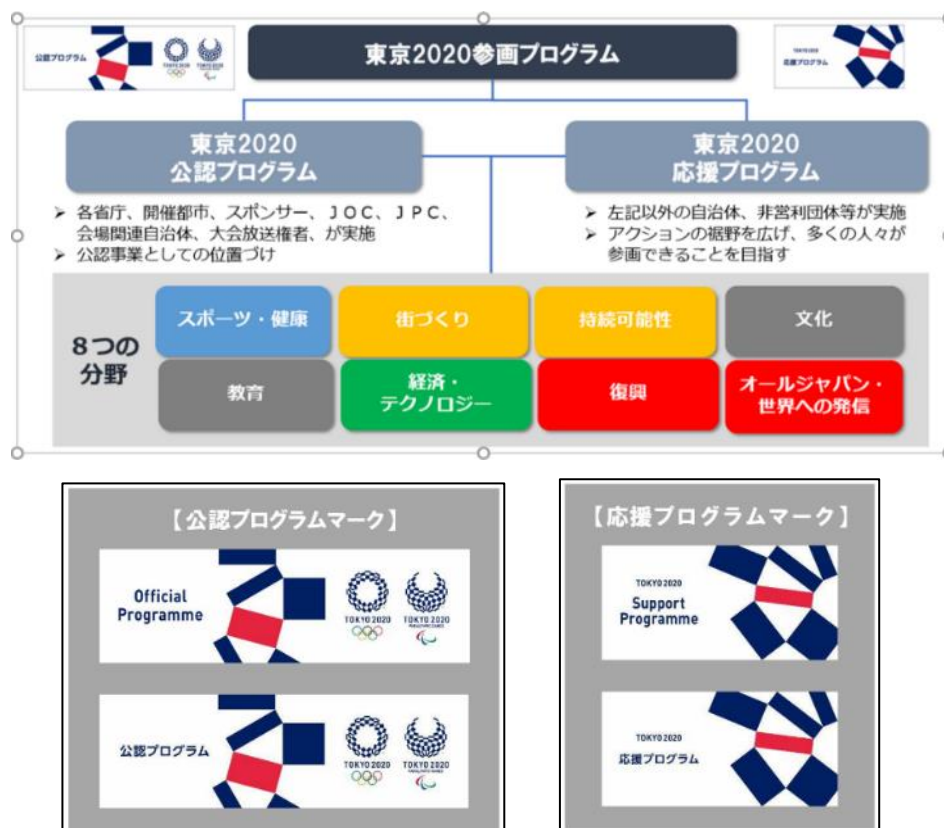
そこで、全国の様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会開催に向けた機運醸成やレガシー創出に向けたアクションを実施することにより、多くの方々が参加出来る仕組みとして、2016年10月より東京 2020 参画プログラムを開始しました。

東京 2020 大会に向けた様々なアクション（イベント・事業等）を組織委員会が認証し、マークの付与等を行うことにより、東京 2020 大会とのつながりを実感していただき、「オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成に向けた参画促進」と「レガシー創出に向けたアクションの推進」を目指していきます。



(2) 参画プログラムの概要

参画プログラムは、「公認プログラム」と「応援プログラム」、2つのプログラムから成ります。アクション&レガシープランの5つの柱を8つの分野に分け、それぞれの分野のレガシー創出に向けた取り組みを推進しています。



公認プログラムは、政府、開催都市（東京都、都内区市町村）、スポンサー企業、JOC、JPC、会場関連団体などが実施するアクションを認証するもので、公認事業として位置づけられます。認証されたアクションでは、公認マークやアクションのタイトルや説明文等に「オリンピック・パラリンピック」等の文言を使用することが可能です。

応援プログラムは、開催都市や会場関連自治体以外の自治体、非営利団体等が実施するアクションを認証するもので、アクションの裾野を広げることにより、より多くの人々が参加出来ることを目指しています。認証されたアクションでは、応援マークや、一定の条件のもとタイトル以外（説明文等）の箇所で「オリンピック・パラリンピック」等の文言を使用することが可能です。

(3) 参画プログラムのメリット

参画プログラムの主催者や参加者は、以下のようなメリットを享受することが可能になります。

1) 東京 2020 大会とつながる（オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成）

- ・ オリンピック・パラリンピックとのつながりを生み出すことにより、主催者や参加者に東京 2020 大会への参加意識を醸成することが可能となります。

2) 地域でつながる（地域住民や関係団体等との連携）

- ・ 主催者と参加者、参加者同士のつながり等、新たな関係性を構築することにより、地域が連携して機運を盛り上げていく機会を創出します。

3) 全国とつながる（活動の知名度向上と連携の拡大）

- ・ 組織委員会から全国への情報発信を通じて情報を広く PR することにより、各地域や団体や活動の知名度向上と他団体等との幅広い連携に向けた機会を拡大します。

4) 未来につながる（次世代とのつながりやレガシーの創出）

- ・ 幅広い交流を通じ、未来に残すべき伝統、知恵等を次の世代に継承する機会を生み出し、未来（レガシー）につながる機会を創出します。

2. 現在までの主な実績

申請件数と参加者数

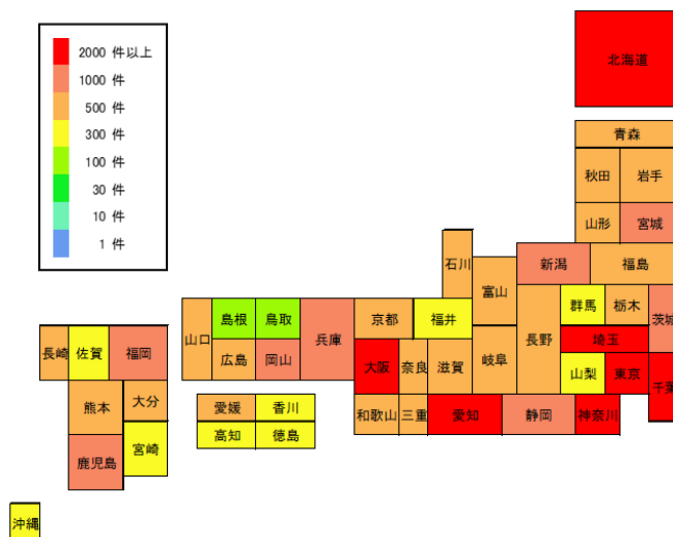
2016 年 10 月の東京 2020 参画プログラム開始から、認証事業件数は約 57,000 件、参加者数（延べ）は約 4,000 万人となっています（2018 年 7 月時点）。

内訳は、公認プログラムが約 36,500 件、応援プログラムが約 3,000 件、東京 2020 教育プログラム オリンピック・パラリンピック教育実施校※が約 17,500 件となっています。

※オリンピック・パラリンピック教育実施校（愛称：ようい、ドン！スクール）とは、東京 2020 教育プログラムの 1 つとして、オリンピック・パラリンピック教育に積極的に取り組む学校を、東京 2020 組織委員会が認証するものです。

全国で様々なアクションが実施されています。

アクションの分布



以下はアクションの主な例となります。

分野	主なアクション例
スポーツ・健康	<ul style="list-style-type: none"> パラリンピック競技体験イベント トップアスリートによるスポーツ教室 等
街づくり	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者に対するおもてなし講座 防災やテロ対策を考えるセミナー 等
持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト チームでゴミ拾いを競い合うスポーツイベント 等
文化	<ul style="list-style-type: none"> 1万人のシルバー世代で構成される劇団による演劇の上映 アールブリュット作品の展示会 等
教育	<ul style="list-style-type: none"> 学生による 2020 年に向けた映像制作およびコンテスト 資源の大切さを学ぶ環境出前授業 等
経済・テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> テクノロジーを活用した大会盛り上げのためのアイディアソン 東京 2020 大会と日本の経済成長をテーマとしたシンポジウム 等
復興	<ul style="list-style-type: none"> 被災した子供たちを対象としたスポーツ体験プログラム 石巻市にある聖火台で子供たちと触れ合うイベント 等
オールジャパン・世界への発信	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生を対象とした東京 2020 大会に向けたポスター募集 訪日外国人の観光やおもてなしに対するセミナーやシンポジウム 等

3. さらなる機運醸成に向けて

これまでは、参画プログラムの主体者は政府や開催都市（東京都、都内区市町村）、会場関連自治体、大会スポンサー、JOC、JPC が中心となっていました。東京 2020 大会につながりを全国に拡大するため、2017 年 7 月 20 日より対象団体を大幅に拡大しました。会場関連自治体以外の市町村や自治会・町内会等、商店街等、また国内競技団体や体育協会、公益法人やその他法人等、多くの非営利団体も対象として、盛上げにつなげていきます。

東京2020参画プログラムの対象団体

＜公認プログラム＞	＜応援プログラム＞																
<ul style="list-style-type: none"> ■ 政府（各府省庁） ■ 開催都市（東京都・区市町村） ■ 大会スポンサー ■ JOC、JPC ■ 会場関連自治体（道県・市町） ■ 大会放送権者 	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">公共関連</td> <td>市町村（会場関連自治体を除く）</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">地域関連</td> <td>自治会・町内会等、商店街 （自治体による主体登録が必要）</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">スポーツ関連</td> <td>国内競技団体、体育協会等</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">学校関連</td> <td>連携大学、その他の大学、高専、専修・各種学校 （国公立、学校法人・準学校法人）</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">経済関連</td> <td>商工会議所、商工会、経済界協議会</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">国際関連</td> <td>国際機関、大使館</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">公益法人等</td> <td>公益財団・社団、認定NPO、社会福祉法人、独立行政法人・特殊法人（除く株式会社）等</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">その他</td> <td>一般財団・社団、NPO 等 （公的団体等による主体者確認書の提出が必要）</td> </tr> </table>	公共関連	市町村（会場関連自治体を除く）	地域関連	自治会・町内会等、商店街 （自治体による主体登録が必要）	スポーツ関連	国内競技団体、体育協会等	学校関連	連携大学、その他の大学、高専、専修・各種学校 （国公立、学校法人・準学校法人）	経済関連	商工会議所、商工会、経済界協議会	国際関連	国際機関、大使館	公益法人等	公益財団・社団、認定NPO、社会福祉法人、独立行政法人・特殊法人（除く株式会社）等	その他	一般財団・社団、NPO 等 （公的団体等による主体者確認書の提出が必要）
公共関連	市町村（会場関連自治体を除く）																
地域関連	自治会・町内会等、商店街 （自治体による主体登録が必要）																
スポーツ関連	国内競技団体、体育協会等																
学校関連	連携大学、その他の大学、高専、専修・各種学校 （国公立、学校法人・準学校法人）																
経済関連	商工会議所、商工会、経済界協議会																
国際関連	国際機関、大使館																
公益法人等	公益財団・社団、認定NPO、社会福祉法人、独立行政法人・特殊法人（除く株式会社）等																
その他	一般財団・社団、NPO 等 （公的団体等による主体者確認書の提出が必要）																

参画プログラムの更なる盛上げ、全国からの参加を促進するため、組織委員会からの積極的な情報発信、分かりやすい参加方法の整備、アクションのPRする機会の提供等を進めていきます。

（1）参画プログラム「ホストタウンアクション」の実施

内閣官房が 2020 年の大会開催に向け、参加国・地域との相互交流を図る自治体を「ホストタウン」として登録しています。そのホストタウン登録自治体を実施するアクションに使用できるホストタウン用参画マークを制作しました。



(2) 参画プログラム「2 Years to Go!」マークの作成

東京 2020 大会開催 2 年前の期間に使用出来る「2 Years to Go!」バージョンの公認マーク、応援マークを制作。該当期間に実施されるアクションで使用可能としています。



(3) 各地域の祭りを応援プログラムとして認証

2017 年に引き続き、日本の伝統文化であり、地域の活性化にも寄与する祭り（概ね 6 月～11 月実施）を応援プログラムとして認証しています。

「東京五輪音頭-2020-」については、はじめてでも踊りやすい、ゆったりとした踊りが特徴の「ゆうゆう踊ろう」を発表するとともに、踊り方の DVD を制作し全国自治体等に案内しました。そのほか、公式ライセンス商品として、大会エンブレムをモチーフとした法被、うちわなどを用意しました。



今後も、オリンピック・パラリンピック 500 日前 (500 Days to Go!) 等、様々な機会と連携し、参画プログラムへの参加と盛り上げに寄与する施策を展開していきます。

第八章 東京 2020 NIPPON フェスティバルの展開

- ・ 文化オリンピックの集大成として行われたロンドン 2012 フェスティバルは、ロンドン 2012 大会成功に大きく貢献したと評価されています。
- ・ ロンドン 2012 大会では、大会の3週間前から大会終了までの12週間に渡り、イギリス・ロンドンをアピールする多くの良質な文化芸術イベントを実施し、国内外にオリンピック・パラリンピックへの期待感を高める情報を発信し、大会の盛り上げにつなげました。
- ・ 東京 2020 大会においても、大会前から「東京 2020 NIPPON フェスティバル」を実施することとし、文化の祭典でもある、オリンピック・パラリンピックの盛り上げを最大化します。

1. 会期

聖火リレーのスタートの時期も念頭に置きながら、全国的な盛り上げを目指し、2020年4月頃から9月頃までを会期とします。

2. 実施の目的

- ・ 東京・日本へ世界からの注目が集まるこの時期に、東京 2020 大会の公式文化プログラムとして、我が国の誇る文化を国内外に強く発信します。
- ・ 2 回目の夏季パラリンピックを世界で初めて開催する都市として、大会後の共生社会の実現に向けて、多様な人々の参加や交流を創出します。
- ・ 聖火リレーを契機に、文化・芸術活動を通じてオリンピック・パラリンピックに参加できる機会をつくり、大会に向けた機運を高めます。

3. コンセプト

東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、
全国でくり広げられる文化の祭典、それが東京 2020 NIPPON フェスティバルです。
日本にあらゆる国の人が集う本大会に先駆けて、
様々な人と文化が交流する場となるはずです。
地方と都市。日本と世界。
あらゆる境界を超え、ひとつになるその時。
きっと、かつてない文化が生まれるでしょう。
きっと、多様性の力と素晴らしさを実感するでしょう。
きっと、新たな文化と感動が未来につながってゆくでしょう。
その主役は、私たちひとりひとり。
そして舞台は、この国のあらゆるまちとまち。
日本各地の熱気と多様性の融合から、すべては始まります。
東京 2020 NIPPON フェスティバル。それは、
この国の新たな可能性を開くフェスティバルです。

4. フェスティバルのマーク

- ・東京 2020 NIPPON フェスティバルの象徴となり、フェスティバルを全国に広げる力のあるマークを作成しました。
- ・大会エンブレムと同じ 3 種類の四角形を、同じ数組み合わせたマークが描くのは「Harmonized Checker= 調和した市松」です。
- ・多様性の調和により可能性や希望が広がり、東京 2020 NIPPON フェスティバルがイノベータータイプでアクティブな新しい輝きを起こしていくことを、デザインに込めています。



東京2020
NIPPON
フェスティバル

5. 事業体系

(1) 主催プログラム

- 組織委員会が主催する4つのプログラム
組織委員会は、フェスティバルの盛り上がりが全国に波及するよう、東京を中心に大規模な文化プログラムを計画しています。

時期	テーマ (位置づけ)	概要
2020年4月頃 (キックオフ)	大会に向けた 祝祭感	東西を代表する無形文化遺産・舞台芸術の融合による世界初の舞台を2020年の東京で実現
2020年7月頃 (オリンピック直前)	参加と交流	日本文化を通じて様々な人々が交流する場・イベントを創出。世界の心をつなげるフィナーレ
2020年8月頃 (パラリンピック直前)	共生社会の実現	障がい者やLGBTの人々を含めた多様な個性を持つ人々が参画し、街中で様々なアートやパフォーマンス活動などを展開
2020年5月～7月頃	東北復興	東北各県と連携し、東北各地・東京を舞台とした文化プログラムを展開。国内外へ東北の現在の姿を発信

(2) 共催プログラム

- 大会を象徴するプログラム等を国、地方自治体、文化芸術団体、パートナー企業などと組織委員会が連携し実施します。